S03 ウェアラブル端末を用いた非感染性疾患予防法の検討

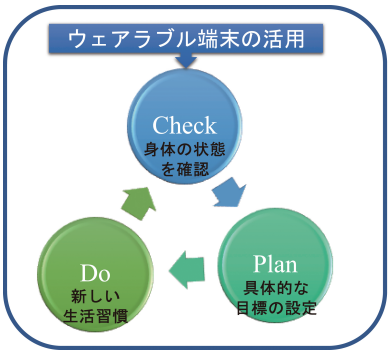
基礎教育センター(兼)
総合技術研究所・准教授・今井　智子
imaitomoko@aitech.ac.jp

キーワード　ウェアラブル端末、生活習慣、非感染性疾患

概要

人生100年時代を見据え、幅広い世代が活躍する新しい社会システムの構築が進められている。一方、利便性の向上により身体活動量が減少し、非感染性疾患のリスクが高まることが懸念されている。

近年、生体センサの進展により汎用性の高いウェアラブル端末が広く普及している。これらの端末には詳細な生体情報を蓄積・分析する機能があり、生活習慣を見直す有用なツールとなり得る。しかしながら、ウェアラブル端末で得たデータの活用方法は十分に検討されていない。ウェアラブル端末の「活用法」を開発することは人々を「健康的な生活習慣」に導き、非感染性疾患の予防に貢献できる可能性がある。



セールスポイント

1．ライフステージに合わせた行動変容モデルを開発することができる。
2．健康経営の取り組みとして期待できる。

企業等での活用例、今後の展望等

1．ウェアラブル機器の利用価値を引き出し、活用につながる。
2．部署や世代間の活動量の違いが明確になり、働き方の見直しに活用できる。

SDGsの位置付け「全ての人の健康に寄与（SDGs 目標3）」

「2030年までに非感染性疾患による若年死亡率を、予防や治療を通じて3分の1に減少させ、精神保健及び福祉を促進する」ことに貢献することができる。

参考資料

愛知工業大学教育・研究助成　２０１９（令和元）年度報告書
生体情報「可視化」を活用した生活習慣改善の教育的取り組み　pp１０−１１